

長徳山知恩寺百万遍は浄土鎮西四ヶの一本寺なり、古は加茂の神宮寺にして、慈覚大師の草創なり。法然上人

鴨下上を尊信ありて感應を得給ひ、一宗を弘通し給へり。又ある時鴨皇太神宮懇望ありて、末世衆生のため一枚起請を

書しめ給ふ、是より当寺を改て念仏の道場とし、徒弟勢観房源智上人に附属し給ふ。「源智上人は当寺の二世にして、

備中守師盛の男なり、無双の智者といひ伝ふ」後醍醐天皇の御宇に、日本大に疫癘流行て死するもの数しらず、帝こ

れを憐給ひて諸の祈祷ありといへども更に験なし。時に当寺の八世善阿上人に勅命ありて是を祈らせ給ふ、善阿参内し

て更に余行なく、一七日の間念仏すること一百万遍なり、疫病忽に退て天下安堵す、「此時修する所の大珠数今にあり」

帝大に叡感ありて号を百万遍と賜る。「此時弘法大師の筆跡利剣の大名号を賜ふ、当寺の什宝なり」本堂には元祖大師

の像を安置す、本師堂の釈迦如来は慈覚大師の作なり、鎮守は鴨太神宮なり。「毎歳葵祭には当寺に於ても法楽の神事

を執行あるなり」堂前の石碑は、建久年中に小松内府重盛宋朝へ黄金を渡さる、其志に感じて襄陽の龍興寺より石刻の

阿弥陀経を賜る、「今筑前国善導寺にあり」其形を模す所なり。「一心不乱の以下廿一字の増字は此石経を濫觴とす」